

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



107号
2009年3月27日

ときわ台の景観を守る会
ときわ台まちづくり委員会
代表 鈴木博之 近藤洋子
事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 行政訴訟始まる

第1回東京地裁での口頭弁論が3月11日(水) 11:30~522号法廷で行われました。傍聴席は、ほぼ30人ほどの状況でしたが、このニュースで知って来られた街の人もいたようでした。

原告二人の意見陳述の予定でしたが、一人がインフルエンザで欠席。代読が認められず、次回に廻されました。原告Nさんが常盤台の歴史・タカラレーベンのマンション紛争・しゃれ街景観重点地区指定などのまちづくり運動について述べ、弁護士から訴状の概略説明があり、次回の期日が検討され、30分で終わりました。

後で裁判所から弁護士に連絡があり、タカラレーベンの裁判の地裁と高裁の判決文を提出するように言って来たそうです。今回は原告適格について云々するのですが、私達常盤台住民は「法的保護に値する景観利益」を有しているので、当然原告となる資格すなわち原告適格があると主張しています。裁判所もこれを無視することはできないでしょう。

第2回口頭弁論

5月18日(月) 11時30分
ぜひ傍聴に来て下さい。

○ 任命制の委員会とは？

各種の審議会や審査会の委員は、ほとんど任命制だが、その人事は不透明だ。日本建築センターという民間確認団体は天下り団体として有名だが、その理事が都の建設委員会の委員をも務めている。自身が下した建築確認について訴えがあった時に、果たして公正な審査ができるだろうか。一方、東京都の開発審査会は制度として17年間、100件ほどの案件を審議してきたが、住民の訴えを認容したことは皆無だった。2年前、某委員が任命されて初めて認容が2件あった。画期的なことだ。それまでの100件中0だったものがたった2年間で2件出ただけだから。それ以前のものも疑わしいだろう。しかし、この委員は任命止めとなり、理由も開示されなかった。普通この委員会では4期8年は任命されるのに。後任は都庁のOBだという。私達はこういう任命制の委員会に厳しい目を向けなければならない。為政者に限らず人は自分に都合の良いようにことを運びたがるものだ。天下りや不公正な任命、このような仕組みが長く続いたからこれほど腐敗してしまっただけだ。“チェンジ”が必要なのはアメリカではない。

○ 龍谷大学学生の 研修・勉強会

3月13日(金)、京都龍谷大学法学部牛尾ゼミの2年生16人が、研修旅行で常盤台を訪れ、研修した結果の発表と住民との意見交換を兼ねて勉強会を開きました。

常盤台駅で対面し、問題の二つの駅前マンションを見た後、図書館に荷物を置いて、街歩きに出ました。常盤台小学校の1本のソメイヨシノがなぜか満開で、歓迎の意を表しているようでした。心配された雨もふらず、お昼は恒例の「キッチンときわ」のオムライスで。

条里制の京都に育った彼らには、曲線の道ばかりの常盤台は興味深かったようです。一時からの意見交換には、米倉弁護士にも参加していただきました。第一回口頭弁論の直後でもあり、答弁書にも目を通して、さすが法学部の学生達と関心するような充実した内容でした。

翌日は練馬区向山や文京区の銅御殿を見た後、国立の景観問題を勉強し、3日目は自由行動とのことです。実り多いゼミ旅行だったことでしょう。

常盤台で見かける鳥

ー カラス・オナガ・シジュウカラー

一番多いのはやはりスズメでしょう。常盤台のスズメは臆病で、直ぐ逃げてしまうのが残念です。

メジロがこの頃増えているのは、地球温暖化のせいでしょうか。椿など花の蜜を吸っています。姿・鳴き声・羽の色、どの点でもかわい鳥です。体格ではスズメに劣るのに、なぜかスズメより気が強いのは、くちばしの形に原因があるようです。雑穀を拾うスズメのくちばしは小さくて尖ってもなく、メジロのほうは細くても鋭くて武器になるのですよう。

この頃桜の花びらが、丸の花ごといくつも散っているのを見かけます。スズメが食いちぎっているのです。彼らはヒヨドリやメジロのようなくちばしをしていないので、花の蜜を舐めるには、蜜のあるところを食い散らすしかないのです。身体は大きくともヒヨドリはそんなことはしません。

ヒヨドリはかなり雑食で、パンくずなどもスズメや鳩を追い散らして食べています。カ関係であればカラスの次に位置しています。雑食ではありませんが、ゴミを漁っている姿は見ません。キジバトとメジロぐらいが都会化しない食生活を続けているようです。

先日、ロータリーのタマ竜の上で、ツグミを一羽見かけました。広い庭のある家にはよく来ているようです。

東上線立体交差は？

東上線の駅対策がずっと前から人々の関心事となつています。楽観的な議員や組織の中には、高架化よりも大深度の地下化を図り、地上は緑化やサイクリングロードに利用したいと夢を語っている人もいます。そうすれば放置自転車対策もすんなり解決となるわけです。何よりもかなりの頻度で起きてくる痛ましい踏切事故が無くなるでしょう。

しかし、相当な費用がかかることと、成増と池袋間のお金にならない各駅への投資には、東武鉄道の腰が引けているそうです。

講談社「新・土地のグランプリ」

先日、講談社セオリーの人たちがかなり丁寧な取材をして行きました。二十五日発売になった同誌は、前回と同様、格付けや新しいマンションの宣伝という姿勢にやや疑問を覚えますが、常盤台について「住民が町を慈しんでいる」と表現しているのが嬉しいことでした。板橋区ではやはり常盤台が一番高い評価を受けています。

常盤台公園の花づくり

今は水仙の花盛り、チューリップの蕾が葉の間から覗きだしました。どんな色の花なのか、私達にも解りません。ひたすらTさんが自費で購入して植えてくれました。今年は七〇球ぐらい植えたようです。しかし、いつもTさんは球根代を受け取ろうとしません。住んでいるのは富士見町だけれど、常盤台公園を愛する気持ちは誰にも負けないでしょう。

Kさんも二、三年前からの前野町住人ですが、行動半径はほとんど常盤台ですし、この街や、庭造りが好きで公園の活動に参加してくださいました。宮本町のMさんは、バラの手入れの時には喜んで手伝うと約束してくれました。

常盤台の環境を愛する人は常盤台の住民とは限りません。肝心の私達住民がこの街を大切にしないとしたら、この人達の善意を裏切ることになるでしょう。

また、常盤台のまちづくり運動を地域工ゴよばわりする一部の人たちには、こういう人々の存在をぜひ知って欲しいと思います。

定例会 四月十一日(土) 七時

一・二丁目町会事務所